

神奈川労働局幹部との懇談会

神奈川労働局幹部と協会との懇談会を12月12日開催した。協会側は労務委員長はじめ21名が、神奈川労働局からは局長はじめ11名が出席した。

開会にあたり阿部労務委員長から、「健康保険や年金・雇用など様々な問題がある中で、安心して就業できるための長期的な雇用を作るには従来型の産業や雇用の中身で良いのか、そのような中で教育訓練は見直さなくていいのか、そもそも新しい産業および職業というのは果たして長期的にみて安定して働けるのか、なかなか就業率が悪いと言われている育児・介護の問題はどうするのか、といった現状や課題を踏まえ、神奈川らしい新しい産業創造・働き方がどうあるべきかということも意見交換し、一部でも行政に取り上げていただけることがあればと期待している。」との挨拶があった。



及川局長からは、「労働局の施策も幅に広い施策を行っているが、企業の皆さんに理解していただいてこそそのものと思っている。各企業の現場の声をお聞きし、場合によっては本省にフィードバックする等、忌憚のない意見交換をさせていただきたい。」との挨拶があった。

引続き労働局の各部長より、労働基準行政の取組状況、職業安定行政の取組状況、雇用均等室の取組み状況、について説明があった。

意見交換では、最賃と生活保護手当について、ジョブサポーターについて、障害者雇用について、等々の質問や意見があった。（文責事務局）